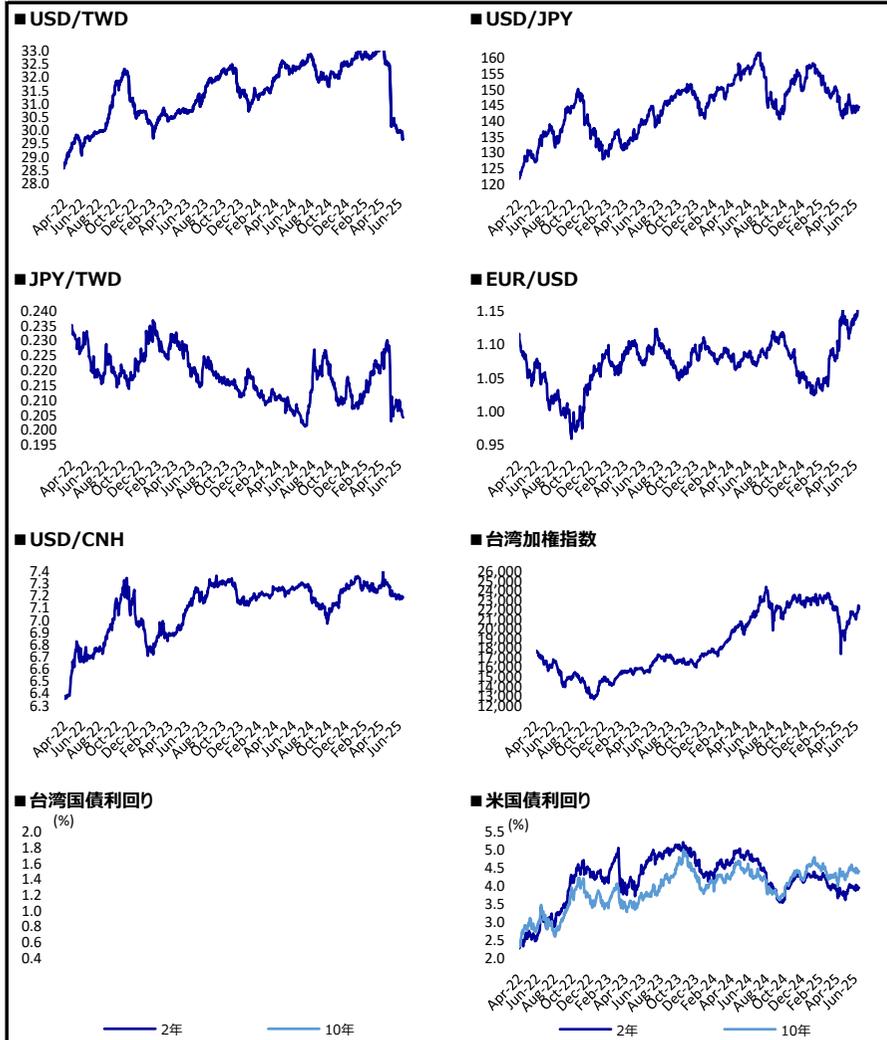


市場動向



先週の市場動向

■ USD/TWD
先週のドル/台湾ドルは下落。週初6/9は29.960でオープン後、先週末に発表された米雇用統計が市場予想を上回ったことで、台湾ドルはアジア通貨とともに小幅下落。その後、米中貿易交渉を控える中、様子見ムードが強まり、方向感の欠ける展開が続いた。6/10、台湾株の上昇につられ、リスクセンチメントが改善し、台湾ドルの下値をサポート。6/11は、米中貿易交渉や米5月CPIの結果を控える中、様子見ムードが強まり、方向感の欠ける展開が続いた。その後、台湾株の上昇につられ、リスクセンチメントが改善し、台湾ドルの下値をサポート。6/12は、米5月CPIが予想を上回ったことで、米国における利下げ期待の上昇とともに、台湾ドルも上昇。6/13は、外資によるドル売りが優勢となり、一時29.50価格近辺まで下落。しかし、中東情勢の緊迫化でリスク回避のドル買いが入り、最終的には前週比0.88%ドル安台湾ドル高の29.668で先週の取引を終了。週間の外国人投資家の株式買い越し額は473.4億台湾ドル。

■ USD/JPY
先週のドル/円は下落。週初6/9は143.50でオープン後、ドル高となった先週末の売り戻しを受け一時144円を割れる水準まで下落するも、その後海外時間では米中通商協議を控えて買い戻しからドルが上昇。6/10は、植田日銀総裁が「基調的な物価上昇率は物価目標の2%まで少し距離がある」と発言した事を受けて、円売りが進み一時145.29まで上昇。6/11は、。トランプ米大統領による米中協議進展の発信にこの日の高値145.47円まで上昇も、その後発表された米5月CPIの弱い結果を受けドル売りに転じると、ドル円はこの日の安値144.33円まで急落。6/12は、昨日のCPIに続き5月PPIが市場予想を下回ったことから143.19まで下落する。その後は一旦ドル売りの調整からドルが買い戻される展開に143.90まで戻すが上値は重く推移。6/13は、中東情勢悪化を受け、リスク回避でドル円は一時143円を割り込んだものの、原油価格上昇による円安圧力も入り、ドルの下値をサポート。最終的には前週比0.53%ドル安円高の144.10で先週の取引を終了。

■ USD/TWD 予想レンジ：29.500-29.900
今週のドル/台湾ドルは上値の重い推移を予想。重要な経済指標やイベントを控え、やや方向感の出にくい環境となるが、ドル資産離れの動きが続く限り、ドルの戻り売り姿勢を維持。

■ USD/JPY 予想レンジ：142.00-146.00
今週のドル/円は揉み合い推移を見込む。原油価格を一気に10ドル超押し上げた中東情勢はもちろん、米国と中国や日本の関税交渉の行方も予断を許さぬ状況で、事態の変化を伝えるニュース速報に逐一反応する「ヘッドライン相場」が続く見通しだ。

今週の予定

6/16 (MON)	中国5月小売売上高、中国5月工業生産、米6月NY連銀製造業景気指数
6/17 (TUE)	日銀金融政策決定会合、米5月小売売上高
6/18 (WED)	米FOMC金融政策決定会合、米5月住宅着工件数
6/19 (THU)	
6/20 (FRI)	米6月フィラデルフィア連銀製造業景気感指数

(Source) Thomson Reuters, Mizuho Bank

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。当資料に記載された内容は、事前連絡なしに変更されることがあります。投資に関する最終決定は、お客さまご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず、無断で引用、複製することを禁じます。